

図書館においてある本の中から  
おすすめのものピックアップ。  
バラエティに富んだ本を紹介します。

ルルトララのにこにこクリーム

あんびる やすこ 作



今回はカスタードクリーム作り  
にチャレンジ！クリームを使  
ったデザートレシピもいっ  
ぱいです。

町立 鷹巣図書館

TEL0996-86-1111

町立 指江図書館

TEL0996-88-6500



これを食べれば医者はいらない

若杉 友子 著

病気になる食事、健康になる  
食事、現代人とはかく食べず  
ぎ。料理をおいしくする、おば  
あちゃんの知恵を紹介します。

Pick Up publication

長島 文芸

Nagashima Bungai  
ながしまぶんげい

明神俳句会

流木に貝びつしりと大暑来る  
淵脇 護  
卯波立つとさか採る衆の引掻棒  
筑前 初市  
偽りは言わぬと決めてメロン喰む  
竹内 功  
山深くかくれ念仏滴れり  
坂口 静子  
浜木綿群がり咲いて漁師町  
山寄加代子  
一日の労働をひて夕涼み  
関 佳代美  
梅干すや米寿の母の皺深く  
大堂 早苗  
ひと時の力に揺られて月下美人  
二階堂恵子  
黒の瀬戸渦が描いた夏模様  
大堂 正弘  
田を植へて落ち着く水や道祖神  
迫口 君代

長島短歌会

亡き夫の植えし紫陽花わが庭に盛り上り咲くわれ  
呼ぶ如く 松元 睦子  
額より流る汗をふき乍らうたたねしをりぬくき  
吉田 映子  
屋過ぎ 仙人掌の鉢に朝夕手を合はす一人居の友の明け暮  
市尾 操  
れの歌 青空に干さるる島の田も鳥も雨欲しけれど雲さへ  
見へず 岩下 ち江  
炎天に想ひ出さるる真昼どき長崎原爆の稲妻見し  
を 岩下 房代  
帰らむとわが離るればわが後を姉の両眼は縋るこ  
と追ふ 櫻平 頼子  
わが腕に蚊の嘴刺しみて暫くは気づかぬ齢よ昨日  
も今日も 米尾 和子  
子ら去りて淋しき間もなく久びさに姪来て賑ふ盆  
も過ぎゆく 坂之下典子  
小・中学生の鉦と太鼓が遅しく奉納さるる御八日

踊り 中山タマエ  
炎天の海を隔てて阿久根市の家並は白く夕陽に映  
える 浜田美代子  
明日果つる命と知らず蝸は沢の真上の椎森に鳴く  
浜畑 松枝  
水通ふ稲田を見つつゆく夕べしば鳴く蝦蟇の低き  
声ごえ 林 ヒロ  
片腕なき釣り人しきりリール巻く釣りし魚は妻に  
委ねる 本田 幸子

創生短歌会

今鳴いておかねば生涯鳴く事が無いと鳴くなりみ  
んみん蝉は 竹之内重信  
新聞の端をめぐりて盆過ぎの風が豊を通りてゆけ  
り 宮元 司  
買物をする楽しみは妻がみな取り上げていて我が  
家ことなし 村上 義彦  
誰も来ず誰あれと居らずまどろめばテレビのドラ  
マ終りていたり 野村 益信  
竹竿に柿挽ぎくれし人逝きて今年も柿の木は栄え  
おり 石原百合子  
水草を浮かべ目高を鉢に売る園芸店の店主も老い  
ぬ 大塚 洋子  
田の水を引く争いが今日もあり畦道に一輪車が日  
を浴びており 山下 学

一般作品

「短歌」

号泣す選手のありて県予選背すじのぼして二試合  
目観る 平木 良雄  
人生は生まれ来たなら忘れずと良い事成して後残  
すなり 町田 末則  
釣りに勇む漁船に掲げた五色旗沈む夕日に輝いて  
見ゆ 天地 雪舞  
幼子の運動会をテントより見学するも年のおかけ  
か 中仮屋辰子  
「俳句」  
戦さ無き世なれど自然の厳しさや 宗方 清明